

さわやかタイムカラ情報

一隅を照らす十島の教育

発行元 十島村教育委員会

〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 099-227-9771

E-mail toshima-ky@tokara.jp

十月～ 凡事という一道

十島村教育長 原口 英典

露草も露のちからの花ひらく(飯田龍太)

今、道端には秋の草花がそれぞれの色や形をもって、他を排除したり、他の存在を貶(おとし)めたり、邪魔したりすることなく咲いている。よく見るに、よくもこんなにこの花にあった色彩を、また色艶(いろつや)を、そして形を産み出すものだと、思わず小さな小さなその草花の、また大きな花木のメカニズムの不思議さに感嘆させられる。目の前の花々をしばし見入ることである。観れば見るほど味わい深い。

花にとつての凡事とは、「ただに咲く」ということである。ただに咲く」ということは、自らをありのままに受け止め、受け入れるという自己肯定感・自尊感情なくしてはむづかしい。それらを根っこに据える咲き方を貫くことは、いつの間にか他の草花の在り方を尊敬する道にも通じていくことのように思われる。凡事という一道の持つゆるぎない価値を花に学ぶことである。

今朝は、昨夜の雨風に、街路樹の葉も、ことのほか多く路面に舞い降りている。季節のもたらす現象とは別の力も加わっての光景に誘われる。こんな光景に出合うとき、ふっと「葉っぱのフレディ」(レオ・パスカーリア著)の内容を思い出す。路面にあるこれらの葉も、おのずと、また他の力によって木の枝から「引越し」したのだ。しみじみ観るに、一枚一枚の平凡な葉っぱといえども、無造作に踏むのを躊躇(ためら)わされる。これらもただ一途に生きてきたのだ。そのただに生きるという平凡こそが尊く、だからこそ一枚一枚にいのちの連環が宿っているのだ。

この17日、教育者として日々の凡事を、一筋の道として非凡に打ち込んでこられた本村の前教育長の齋脇司先生が、文部科学大臣から「地方教育行政功労者表彰」を受けられた。2期8年間にわたる本村への御貢献と本県教育の推進への御助力に対し、心より敬意を表したい。

また、宝島小中学校が、「平成24年度へき地・小規模校教育優秀校」に選ばれた。

ともに喜び、誇りとしたい。おめでとうございます。

【 転入のお友達 ようこそ十島村へ 】

10月22日(月)に、滋賀県から大屋敷歩君が、山海留学生として、平島小4年生に転入学しました。

恵まれた自然と人情豊かな十島村で大きく成長してほしいと願っています。

先生方、地域の方々よろしくお願ひいたします。

【 口之島小中学校計画合同訪問 TV 会議システムで開催 】

10月16日(火)鹿児島教育事務所との合同計画訪問が口之島小中学校を舞台に実施された。今回は、台風の影響で実際に訪問できない無念さをともどもにかみしめながらも、



テレビ会議システムを最大限活用しての実際となった。

法花津校長・高橋教頭による学校経営概要説明の後、2校目となる

本石教諭の研究授業(共同授業)は、少人数の欠点をカバーすべく、他校(平島小、中之島小も参加)と連携をとりながらの準備を進め、テレビ画面上で複数の子どもたちが意見発表したり、感想を述べたり、聞けたりするきわめて意欲的な取組であった。授業研究も、小中併設校のよさを生かした質疑応答や意見交換が展開された。緒方教育事務所長からも口之島の職員の「和」の精神と子どもを生かそうとする全職員のひたむきさを高く評価していただいた。池田尚人指導主事からも厳しくも温かい的を射た助言をいただいた。口之島小中学校のさらなる前進に寄与する学校訪問となった。

【 村教育委員紹介 】

○ 坂元 勇 教育委員長(悪石島)
○ 用澤満男 教育委員長職務代理者(平島)
○ 羽生 慎 教育委員(中之島)<新>
○ 福島隆志 教育委員(宝島)<新>

【 入賞おめでとうございます 】

第49回南日本硬筆展(9月号に続く)

- 金賞 ・寺田碧海(宝島小1年) ・平田舞佳(宝島小1年)
- ・平田一華(宝島小2年) ・伊地知麻鈴(宝島中1)
- ・平田進之助(宝島小4年) ・飯田陽菜(宝島小6年)
- 銅賞 ・飯田輝星(宝島小3年) ・中村久光(宝島小4年)

【 宝島の女神山 天然記念物に指定! 】

宝島女神山の森林植物群落が、平成24年9月19日付けで国の天然記念物に指定されました。その保護に配慮いたしましょう。

【 絆 シリーズ 山海留学生として学ぶ 】

小宝島の力 (その2:9月号に続く)

刈谷 飛秋 現在高校1年生(薩摩川内市)

学習面では、放課後にマンツーマン指導みたいな形で先生の説明を受けて勉強をすると、授業の内容も少しずつ分かるようになってきました。

翌年、新しい仲間や先生方と中学3年生として新しい1年をスタートさせた。5月にはほかの島のみならずと修学旅行で長崎や福岡を巡り、最後の思い出を作った。

そして、この年自分は受験生でもあり、放課後の補習を受けたり、土・日曜日も、たまに学校に出向き先生に教えてもらったりしながら勉強をした。

最後の3学期は行きたい高校を目指し、面接の練習も先生方に協力してもらった。お陰で受験当日は、面接にも落ち着いて受け答えし、自分の力を出し切った。それからしばらく経ち、高校から合格との嬉しい通知がきた。この2年間は、普通では味わえない日々の連続だった。

学校は、小学校と中学校が一緒に、大自然の中にあり、海での水泳学習ができたことも貴重な体験であった。スケッチ大会では海を題材にした絵が、県での入選という賞をもらうことにもつながった。それほど絵が上手な方でもなかった自分が、賞をとれるような絵が描けたのは、大自然に出会ったからかも知れない。

また、運動会では未就学児から90歳過ぎのお年寄りまで、幅広い世代の方々と、島民全員参加してダンスや縄な競争等で触れ合いもあり楽しめた。

一人っ子育ちの自分は、小さい子供の相手をするのも最初は苦手だったが、毎日「遊ぼう」と、甘えてくるうちになれてきた。

民宿を営する里親さんのところに仕事で来る色々なお客さんの方々と、お酒の入った夕食の席でざっくばらんな話をして、色々ためになることを教わった。

この2年前を振り返ってみると、自分は大きく変わっていた。小さな島だけど、自分をこんなに大きく、強くすることができる場所であった。

今は、小宝島で学んだことを忘れずに、高校生として、勉強や新しく友達をつくることを楽しんでいる。(完)

【 子どもたちの作品 】

小学校最後の運動会

平島小6年 福園真里奈

今年の運動会は、雨で体育館になってしまいましたけれど、とても楽しかったです。

楽しいと感じたのは、練習を、がんばってしたからだと思います。でも、練習の時はとても大変でした。午前の部のダンスはすぐに決まったのに、午後の部の演舞は、なかなか決まりませんでした。本番まであと少ししかないのに、決まらなくて、練習時間も少なくなり、本当に大変でした。でも、小学校最後だったので、あきらめずにがんばりました。

私は、白組でした。白組は3人だけで少なかったけれど、力を合わせることができました。

今年の運動会で学んだことは、チームワークを大切にする、ということです。たとえ、少ない人数でも、力を合わせればいい結果につながるということです。

本番では、ずっと5点差で白組が、紅組に負けていたけれど、最後の綱引きで逆転することができました。今まで紅組が連勝していて、なかなか白組は勝てなかったけれど、今年、白組が優勝してとても嬉しかったです。

また負けるかと思っていた小学校最後の運動会は、とてもいい思い出となりました。本当に楽しかったです。

この運動会は、地域の方の協力もあったから、成功させることができました。本当にありがとうございました。

十島村の小・中学校からのメッセージ

口之島小・中学校

養護教諭 山田 浩美

十島村の玄関である口之島では、毎年本村へ赴任される教職員の着任日に、歓迎の気持ちを込めて「十島のうた」を演奏しています。私も、2年半前は迎え入れる側でした。初任教発表から着任まで間がなく、引越しの準備に追われ心に余裕がなかった私に、金管バンドの演奏と歓迎の言葉が、温かい光を差してくれたことを鮮明に覚えています。

川崎市の千人を超える大規模中学校から、極小規模の小中併設校(小6・中3人計9人)へと環境が大きく変わり、職務内容も多岐にわたることに不安や戸惑いがありました。特に緊急時の対応です。口之島をはじめ十島村には医師が常駐していません。緊急時には、教職員や診療所看護師さん等と連携をとり、迅速かつ適切な応急処置・対応がより求められるため、緊張感が強いられます。しかし、巡回診療が月2回あること、看護師さんをはじめ島の方の温かい配慮やバックアップに助けられていること、診療所や消防団と役場・医療機関との緊急時の態勢が整備されていることから大変心強いです。

保健室だけでなく教育活動全体を通して、発達段階や個々の健康課題に応じたきめ細やかな指導・支援、幅広い年齢層を対象とした集団指導ができるのは、本村ならではの強みだと思います。食に関する指導に養護教諭が中心となって関わっていることも本村の特性だと思います。子どもたちとの距離が近く反応がわかりやすいため、健康の自己管理(食生活含む)の大切さや実践力を身に付けさせるための効果的な指導法や支援のあり方について振り返り、研修を深めるよい機会となっています。

また、タモトコリをはじめ四季折々の花、野生牛やトカラヤギが生息する前岳、島のどこからでも一望できる熱帯魚や海亀に出会える海、リーズナブルで入湯できる温泉等豊かな自然と何よりも素直でかわいい子どもたちに癒されています。

教職員仲間である「あなた」へのメッセージ

離島生活への漠然とした不安や、ほとんどの学校で養護教諭は1人職種のため島に1校しかないことに心細さを抱く方が多いのではと思います。

実際に生活してみると、時折自然の厳しさを痛感することもあります。日常生活で困ることはほとんどありません。また、海を隔てていますが、十島村7校の養護教諭の輪ができており、研修会や電話・メール・FAX等を活用して、職務への不安や悩みの解消に努めたり研修や交流を深めたりしています。

豊かな自然と温もりのある十島村で、子どもたちの健やかな成長を一緒に見守っていきませんか。

～11月は「文化芸術に親しむ月間」です。～